

<別表-2>

◎本復旧工事 寸法表(上記基本図による)

種別		復旧寸法 道路現況 記号	本復旧(単位:cm)								
仮復旧	本復旧		A	B	A+B	C	D	C+D	E	F	A+B+C+D+E+F
A号	1号	アスファルトコンクリート舗装	5.0	—	5.0	10.0	15.0	25.0	—	100.0以上	130.0以上
B号	2号	アスファルトコンクリート舗装	5.0	—	5.0	10.0	30.0	40.0	—	100.0以上	145.0以上
	3号	アスファルトコンクリート舗装	5.0	5.0	10.0	10.0	30.0	40.0	—	100.0以上	150.0以上
	4号	アスファルトコンクリート舗装	5.0	13.0	18.0	20.0	20.0	40.0	—	100.0以上	158.0以上
	8号	歩道(アスファルトコンクリート)	3.0	—	3.0		10.0	10.0	—	47.0以上	60.0以上
	9号	歩道(透水性アスファルトコンクリート)	3.0	—	3.0		10.0	10.0	5.0	42.0以上	60.0以上

大型車交通量による舗装種別の区分

舗装種別	大型車交通量(台/日・方向)
A号	1号 T<100
B号	2号 100≤T<250
	3号 250≤T<1,000
	4号 1,000≤T<3,000
	5号 3,000≤T

◎仮復旧工法(占有者施工)

記号	名称	材料・工法
H	表層	密粒度アスコン(最大粒径13mm/20mm)
I	路盤	クラッシャーラン 修正CBR≥30
J	路床	良質土(切込碎石・山土等)
G	路体	締め固め可能土

◎本復旧工法(占有者または道路管理者の施工)

記号	名称	材料・工法
A	表層	車道:密粒度アスコン(最大粒径13mm/20mm)
		歩道8号:細粒度アスコン(最大粒径13mm)
		歩道9号:開粒度アスコン(最大粒径13mm)
B	基層	粗粒度アスコン(最大粒径20mm)
C	上層路盤	粒度調整碎石 修正CBR≥80
D	下層路盤	クラッシャーラン 修正CBR≥30
E	フィルター層	砂 0.074mmふるい通過量6%以下
F	路床	良質土(切込碎石・山土等) 修正CBR≥20
G	路体	締め固め可能土

付記

- この表に示した復旧断面は標準であり、地質または道路の構造等により例外もある。このような場合は、道路管理者の指示する断面で復旧すること。
- 歩道舗装の復旧は次の場合に9号(排水性舗装)を用いることとする。①既存舗装が排水性舗装の場合。②既存舗装の種別にかかわらず、歩道全幅を復旧する場合
- 本表は設計期間10年の道路の場合であり、設計期間を20年とする幹線道路の場合は別途指示する。
- 現況車道が排水性舗装の場合の本復旧断面は、表層は開粒度アスコン、また基層は密粒度アスコンとし、断面構成については別途指示する。
- 占有物件が下層路盤の下面から1.0mよりも浅い位置となる場合は、所定の路床が構成できないことから、別途協議する。
- 仮復旧の際の表層(H)は道路の交通事情により上層よりも厚くすることができる。
- 路床に用いる良質土の目安は修正CBR20以上とするが、個別の計算により設計CBR6以上が確保できる場合はこの限りでない。